

資料
集成

近代日本語〈形成と翻訳〉別巻

川戸道昭 著

中央大学名誉教授

欧米文学の翻訳と近代文章語の形成

漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ

近代日本語は
翻訳との遭遇によって
その核心部分が
形成されてきた。

近代日本語の

〈成立〉とは、〈完成〉とは？

《言文一致》とはなんだったのか？

従来の研究においては…本来ならば欧米の言語・作品との対比の中で考察していかねばならない新たな文学・文章の成立過程を、それを抜きにして考察する傾向が見られた。そのために、いつまでたっても、「二葉亭の「だ」調、美妙の「です」調、紅葉の「である」調」というような正鵠を射ない皮相な解釈から抜け出せないで来た。従来の研究にみられるそうした歪みや欠陥を正すため、本書においては、もう一度原点に立ち返って、モデルとされた欧米の言語・文学との対比を基本に、日本に新たな文章・文学が形成されていく過程を詳しくたどり直してみることにする。すなわち、欧米文学・欧米言語との対比を通して近代文学・近代文章語の形成ということが本書の主要テーマということになる。(本書「はしがき」より)

日本語・言語・文学に関心を抱くすべての人が

一読・再読・熟読しなければならない資料群への

必携の〈道案内〉

(2014年12月刊)



B5判・上製・クロス装・320頁

978-4-283-01188-5

定価(本体20,000円+税)

川戸道昭・榎原貴教 編著 全18巻・別巻1
*各巻分売可

〈共同出版〉大空社 / ナダ出版センター (2014-16)

別巻

欧米文学の翻訳と近代文章語の形成
漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ

川戸道昭 著

「はしがき」より

もし仮に、日本の小説家たちが、この、フロロベールに端を発し、ゾラの自然主義小説、さらにはプルーストの心理小説、ウルフ、ジョイスの意識の流れへと発展してゆく近代小説の手法を自家薬籠中のものとしたいのならば、ここに述べたような登場人物の「言」と語り手の「文」の統一化は不可欠のものとなる。そうでなくては、登場人物と同じ視点・時点に立ってその意識の流れを体感しているようなゾラ一流の心理小説を日本の土壌に根づかせることはできない。そのことにいち早く気づいたのが紅葉であり、紅葉は、明治二四年五月（すなわち「隣の女」の連載を開始する二年三カ月前）に、傍らの田山花袋にゾラの作品を示して、

『さうだね、何と言ったって、しまひには言文一致だね。外国の作品のやうになるにきまつてゐるね』かうかれば言つて、傍に置いてある一冊の本を私に見せた。……忘れもしない、それはゾラの『アベ、ムウレの罪』であつた。……『ちよつと読んで見たがね。面白いね。非常に繊緻な、レアリスチックなものだ。さうだね——たとへてみれば』かう言つて、そこにあつた扇を取つて、少し開けて見せて、『かうした襷、細かい襷の濃淡を一つ一つ書いて見せたやうなものだね……何とも言はれないね。とても此方では真似は出来ないね』

と述べる。ここで紅葉が言う「言文一致」の意味は、単に、口語をもつて小説の文章をつづるといふ、世間一般で用いられる意味ではない。もつと作品の内容に踏み込んで、登場人物の「言」と語り手の「文」を一致させるといふ意味、すなわち自由間接話法の意味で彼はそれを用いているのである。そこに散見される「外国作品」Ⅱ「言文一致」、ゾラの作品Ⅱ「細かい襷の濃淡を一つ一つ書いて見せ」る「レアリスチックな」文体という紅葉の言葉を一つ一つつなげていけば、おのずとそうした解釈へと向かわざるをえないことになる。（略）

このように、近代文学・近代文章が生まれる背景には、欧米の言語や文学との対比を抜きにしては決して見えてくることのない重要な動機や原因が潜んでいる。考えてみれば、それはごく当たり前のことで、当時の新文章語の創造運動というのは、元来が、欧米の情報・知識をより直接的に、より効率的に吸収するための文章語の創造ということを前提にはじめられたものである。文学の場合というならば、精緻な状況描写や心理描写が盛り込まれた欧米の小説をより正確に写しとるための新文体の創造、さらには、そうした小説を日本において新たに創りだすための新文体の創造ということがその大前提となっていた。換言すると、欧米の言語・作品をモデルとする新文体の創造ということが近代文学・近代文章語の形成を促す最大の要因であり、それこそが近代文学・近代文章語の成立の歴史をふりかえる上での最大の座標軸とならなければならないものである。

別巻●目次

口絵（図録）近代日本語形成史「カラー16頁」

●第一部● 欧文の直訳に基づく

日本語の初期化と再構成

●第二部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第三部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第四部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第五部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第六部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第七部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第八部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第九部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十一部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十二部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十三部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十四部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十五部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十六部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十七部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十八部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第十九部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第二十部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第二十一部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第二十二部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第二十三部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成

●第二十四部● 文未辞からたどる

近代文章語の形成